

平成20年1月7日

ダム守同心情報連絡票(第21号)

この情報連絡票は、灰塚ダムのダム守同心の方々並びに関係者の皆様に三次河川国道事務所灰塚ダム管理支所から灰塚ダム及びハイヅカ湖に関する情報をお届けするものです。

1. 本年もよろしく願いいたします。

新年明けましておめでとうございます。

平素から灰塚ダムの管理に対しまして格別のご支援とご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

去年は、建設事業を完了し4月から管理支所という体制で新たなスタートを切りました。

おかげさまで、災害等もなく灰塚ダムの機能を確実に発現でき、管理上の事故なども無く、新年を迎えることができました。

皆様方からの、ご支援とご協力の賜物と感謝いたしております。

本年も、所定の治水、利水、環境保全機能を確実に最大限発現することはもとより、管理上の諸課題に対し一つ一つ着実に取り組み、「ハイヅカ湖地域ビジョン」などを通じて地域の元気、魅力向上に努める所存です。

本年も皆様方のご支援とご協力をお願いいたします。

2. 灰塚ダム管理支所に新しいメンバーが加わりました。

新年、あけましておめでとうございます。

今月4日から藤谷さんの後任で灰塚ダム管理支所で事務の補助として勤務させていただくことになりました山下です。

まだまだ不慣れでご迷惑をお掛けするかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

3. 灰塚ダム諸量

本日のハイヅカ湖への流入水量は毎秒 2m³、ダムから下流への放流量は毎秒 1.5m³ です。

年末年始の降雨・降雪により河川の水量が回復しました。

ダムに貯留している水量も66%に回復し、灰塚ダムの下流においては渇水の心配は今のところありません。

4. ウェットランド・フレントリ館へ“カモ”～ん！

灰塚ダムの上流端、三次市吉舎町知和に整備した、灰塚ダム知和ウェットランド(生きものの生息地としての湿地)では、カモ類をはじめとする多くの水鳥が飛来し、羽を休めたり、餌を食べたりとハイヅカ湖の豊かな自然を満喫しています。

現在多く見られるのは、ヒドリガモ・オオバンです。浅い水深の湿地で逆立ちをして、おしりをフリフリしながら一生懸命餌を食べる姿は、見ているだけで微笑ましくなります。

また、魚を餌とするミサゴという猛禽類も、年間を通してハイヅカ湖で見ることができます。ミサゴのハンティングは、上空を旋回した後、一気に水中めがけてダイビングして魚を捕まえます。ウェットランドへもほぼ毎日ハンティングに訪れます。

ウェットランドの湿地を一望できるフレントリ館では、専門のスタッフが初心者の方にも丁寧に観察の指導を致します。かわいらしいカモの姿、勇壮なミサゴのダイビングの姿を見に来ませんか。

(フレントリ館：三次市吉舎町知和 tel:0824-43-2324 入館料：無料)

5. 本号の最後に

今年の干支の「子」の字は、「ふえる」、「ふやす」との意味をもつ文字の間だそうです。

灰塚ダム・ハイヅカ湖、環ハイヅカ湖地域の魅力が輪となって、和をもって幸せが益々増えますように、元氣・勇氣・やる氣・根氣で頑張ります。

◇ 問い合わせ等連絡先 ◇

国土交通省 三次河川国道事務所 灰塚ダム管理支所

支所長 今岡 俊和 (imaoka-t87mb@cgr.mlit.go.jp)
事務係長 片山 直行

〒729-4302 広島県三次市三良坂町仁賀1575

電話：0824-44-4360(代) FAX：0824-44-3544

(参考)

『ミサゴはハイヅカ湖がお気に入り』



ミサゴ（タカ目タカ科／*Pandion haliaetus*）

北海道から沖縄に留鳥として生息する。

主に海岸に生息するが、湖沼、広い河川、河口等にも生息する。水面をゆっくりと低空飛行し獲物を探す。水辺の岩や樹上に木の枝を組んだ巣を作る。

食性は肉食性で主に魚類を食べる。

獲物を見つけると素早く翼を羽ばたかせて空中に静止するホバリング飛行を行った後に急降下し、水面近くで脚を伸ばし両足で獲物を捕らえる。

（こぼれ話）

ミサゴという名前の由来は様々な説があり水を探るが転じたとする説や、獲物を捕らえる時の水音が由来とする説等があるそうです。

下図は、灰塚ダムで行っている環境調査で確認した、ミサゴの採食に関する行動を地図上に落としたものです。

ハイヅカ湖全体がミサゴの採食場所として活用されていることがよく分かります。特にウェットランドでは餌を探す飛翔行動が顕著に見られます。

